

ぼくのねこポー

「ぼくのねこポー」を読んで

川井 ケ・ロさん

ぼくは、動物が好きです。今回、この本を見た時、とても印象的だったのは、ねこの丸く大きな目です。少しだらりやうな、何かを伝えようとしている感じが見えました。

ポーは、迷子になつてここに上にこたむねを、谷山くんが見つけ、助けてもらっています。谷山くんは、お母さんに、ねこのことを箱にとじこめられていましたのをつぶして、家でかうじとにしました。でも本当は、転校生としてやつてきた森くんが探しに迷子のねこがポーだったのです。本当の名前は、「トム」です。

ぼくは、ポーは森くんの家のいなくなつたねこかもしれない、そのことを森くんに話さなくてはいけない、でも話したくなつてこう谷山くんの心のかつとうに、ずっとハラハラしてしまった。早く本当のいんを森くんに話してほしく、でも、せつかく仲良くなれたポーと、一緒にこたむ気持ちもよく分かる、どうしたらいいのか一緒にいやみました。本の後半で、谷山くんが、勇気を出してポーのことをトムとよんだ時、ポーは谷山くんをじっと見つめます。そして、谷山くんは「決心」します。トムが本当に森くんのねこの森くんに会いたいはずだし、森くんにトムのことを伝えないと、と心に決めたのです。今までトムの気持ちを考えなかつたことを後からつぶしてしまった谷山くんに、早く森くんに正面に話さなかつたことは良くなかつたけど、迷子のねこを助けて、最後はちゃんと自分で正しことは何か気づき、トムを森くんの元に返せたのだから、立派だよと語つてあげたのです。また、「それをつぶしてしまつた森くんとお母さん」、あやまりなきやじこなじと思つてつぶした谷山くんはさらに語りました。「ねこの本を読んで、まちがつたことをしてしまつた時、自分で何が正しこうなのか一生けん命考えて、正しこうとを行うことが大切であることを学びました。ぼくも、谷山くんの「決心」を見習つたうど思ひました。

この本を読んで、まちがつたことをしてしまつた時、自分で何が正しこうなのか一生けん命考えて、正しこうとを行うことが大切であることを学びました。ぼくも、谷山くんの「決心」を見習つたうど思ひます。